災害救援ボランティアは地域福祉の原点

社協が災害救援活動に取り組む意義
～東日本大震災の救援活動から～

3月11日の東日本大震災。戦後最悪の大災害となりました。多発する自然災害。1995年1月の阪神淡路大震災以降、災害が起こるたびに多くのボランティアが救援活動に動いています。今回の大震災でも発災直後からたくさんのボランティアが被災地に入っています。今月号では、社会福祉協議会が災害救援活動になぜ取り組むのか。その意義や役割について考えます。

宮城県岩沼市で活動する宍粟市社協募集のボランティアら（4月2日）

社会福祉協議会（以下「社協」）は、全国の市区町村に一箇所ずつある地域福祉の推進を目的とした社会福祉法人です。地域住民の参加と協力により福祉活動やボランティア活動を進め、地域の福祉力を高めています。そして、その基本は、住民の命と暮らしを守る活動です。これこそが地域福祉の原点であり、社協の理念に通じるところです。

こうした社協活動の原点に立ち、万一の災害時には、「たすけあい」「支え合い」の住民福祉活動を展開します。その活動が被災されたみなさんの命と暮らしを守る「災害救援ボランティア活動」です。

阪神淡路大震災以後 大きなうねりに
災害ボランティア活動

1995年1月17日の阪神淡路大震災以降、この活動は、災害が発生するたびに大きなうねりとなって広がってきました。

こうした被災地でのボランティア活動を進めるために、被災した地域では、社協や行政、NPOなどが協力して「災害ボランティアセンター」（以下「災害VC」）を設置し活動を進めています。

一昨年の宍粟市での豪雨災害時にも、社協は、行政の災害対策本部と協議し、いち早く災害VCを設置し、被災者のための救援活動を全力で行いました。

今回の東日本大震災の被災地では、4月18日現在、8県91市区町村に災害VCが設置され、11万6600人のボランティアが活動しています。（注）

注）このデータは、2011年4月25日付け『福祉新聞』記事による

読者の感想より
毎月、表紙の「ひ孫といっしょ」のコーナーを楽しみにしています。私の家もおばあちゃんと私の子どもが同居しているので、早く順番がまわってきてほしいです。（山崎町　女性）